

中学生の主体性形成に関する一考察 —「見えないお金」を含む金銭管理の学習過程の分析から—

教職実践専攻・教科領域実践コース

学籍番号 23GP302 氏名 金谷 理利果

1 はじめに

経済産業省が2018年に策定した「キャッシュレス・ビジョン」では、2025年までにキャッシュレス決済比率を4割程度にするという目標が掲げられている。2023年時点で、この比率は39.3%（126.7兆円）に達しており、日本社会ではキャッシュレス化が急速に進んでいる¹⁾。

こうした社会の変化に対応するため、中学校学習指導要領（平成29年告示）の技術・家庭編家庭分野には、「金銭の管理」の内容が新設され、「購入方法や支払い方法の特徴を理解し、計画的な金銭管理の必要性を認識すること」が目標として掲げられている。また、「生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れを把握し、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることを理解できるようにする」ことも求められている²⁾。

金融広報中央委員会「知るぽると」によると、全国的に中学生にもプリペイド型の電子マネーは広く普及しているが、キャッシュレス決済の利用経験がある生徒のうち、学校でその仕組みや利用方法について学んだ割合は35.8%にとどまっている³⁾。つまり、学校で学ばずにキャッシュレスを利用している生徒が多いという現状がある。キャッシュレス化が進む現代社会において、生徒が自らの判断で「見えないお金」を含む計画的な金銭管理を行うとともに、知識やスキルを実生活で活用する力が重要である。

人々の生活は古くから、物やサービスをお金と交換する消費行動によって成り立っており、現代の生活もその延長線上にある。多くの人々は、必要であったり欲しいと思ったりした商品やサービスを、その対価としての金銭を支払って生活する消費者である。また何を選択して、いつ、どこで、どのくらい、どんな方法で、購入するかといった消費行動の判断は、消費者自らの意思決定によってなされている。消費行動における意思決定のプロセスには、(1)目的や問題を明確化して、(2)情報を収集し、(3)比較検討してその結果や影響を考え、(4)決定・実行して、(5)評価し、(6)次の意思決定にフィードバックする、という段階がある⁴⁾。こうした消費行動における意思決定力の育成の前提には、金銭管理に関する主体性の育成が必要不可欠である。

そこで、本研究では金銭管理の学習で育む主体性を、「日常生活の中で、自らの判断に基づいて、計画的な金銭管理を行うとともに、目的に応じて最適と考えられる消費行動ができること」と定義した。また、学校における金融経済教育を推進するオーストラリアの金融能力の定義を参考に、その主体性の構成要素を次の5つに分類した⁵⁾。一つ目は、知識である。具体的には、現金や電子マネーなど、さまざまな支払い方法の特徴（メリット・デメリット）の理解や、おこづかいが家計の一部であるという認識などである。このような知識は、消費行動の基本となる部分であり、主体的な金銭管理を行う第一歩であると考えたためである。二つ目は、スキルである。具体的には、収入と支出のバランスを考え、期間に合わせた目標を立て計画的に金銭管理をするために、獲得した知識を活用するためのスキルである。特に、計画性を持つことで日常的に見通しを持つ力が育まれ、将来的な目標達成にもつながると考えた。三つ目は、金銭に関する価値観である。金銭管理には、

何が必要か優先順位を考えて判断する力が必要であり，自分自身で意思決定を行うための批判的な考え方や価値観といった金銭に関する価値判断が重要である。四つ目は，自己効力感である。自分が計画的に金銭管理し，目的に沿った使い方ができるという自信は，主体的に次の行動を起こすための原動力となる。五つ目は，実践力である。学んだ知識やスキルを実生活に活かし，日常生活や将来に役立てるためにとる行動である。

さらに，「見えないお金」を含む金銭管理の学習に際しては，地域や家庭環境によってキャッシュレス普及の状況が異なるため，地域の実態に応じた教育が求められる。加賀は，地方と都市部の中学生の電子マネーに対する意識に影響を及ぼす要因について分析し，生徒の実態や地域の状況に応じて「中学校家庭科と他教科・領域を架橋し教科等横断的で実践的な金融経済教育のカリキュラムを構想・実践すること」を課題として指摘している⁶⁾。

以上を踏まえ，本研究では，中学校家庭科の授業と修学旅行を架橋した金銭管理の学習が，生徒の主体性の形成にどのように寄与したかを検証することを目的とする。本研究では，「見えないお金」を中学生が利用可能な交通系電子マネー（以下，「電子マネー」と略記）に限定して用いた。

2 方法

2. 1 手順

まず，実態把握のための事前調査を行った。次に，「見えないお金」を含めた金銭管理の学習を開発し，実践した。最後に，授業の効果検証のための事後調査を実施するとともに，生徒2名を抽出し，その主体性形成について学習過程の分析を通して検討した。

2. 2 調査対象・時期

授業は2023年12月と2024年5月に，青森県のA市立B中学校の2年生110人（女子49人（44.5%），男子61人（55.5%）（2023年次））を対象に実施した。

事前調査は2023年12月，事後調査は2024年6月に，学級担任あるいは家庭科担当教員の立ち会いのもとウェブにより実施した。授業の効果検証に関しては，事前調査・事後調査ともに完全回答の生徒60人を分析対象とした。本稿で用いた調査項目については2.3で触れる。なお，調査の実施に当たっては，研究代表者の所属機関にて倫理審査を受け承認を得ている（承認番号：0008（2023））。

2. 3 調査項目と分析の手続き

本稿で用いる調査項目と分析の手続きを，表1に示す。事前・事後調査の結果，得られた全てのデータの単純集計を行った。次に，分析の手続きに従って回答を得点化した。

表1 調査項目と分析の手続き

調査項目				分析の手続き
共通項目	電子マネー	電子マネーに対する意識	電子マネーは現金より便利だ	「そう思う」「そう思わない」「どちらともいえない」に対し、「電子マネーは現金より便利だ」「現金より電子マネーを使いたい」：2点，0点，1点，「電子マネーは現金よ
			電子マネーは現金よりお金の管理が難しい（逆転）	
			電子マネーは現金より，お金を支払っている実感がない	

			(逆転)	りお金の管理が難しい(逆転)」「電子マネーは現金より、お金を支払っている実感が無い(逆転)」「電子マネーは現金より、使いすぎてしまう(逆転)」: 0点, 2点, 1点
			電子マネーは現金より、使いすぎてしまう(逆転)	
			現金より電子マネーを使いたい	
		電子マネーの認知度	交通系電子マネーカード	「よく知っており説明できる」「聞いたことがある程度」「知らない」
		電子マネーの利用度	交通系電子マネーカード	「今、自分でチャージして使っている」「今、家族にチャージしてもらって使っている」「以前、自分でチャージして使ったことがある」「以前、家族にチャージしてもらって使ったことがある」「使ったことはない」
	消費生活に関する知識・意識・行動	消費生活に関する行動	おこづかいの使い方に計画を立てている	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」
日頃の行動		欲しいものは、貯金してから買う	「よくそうする」「たまにそうする」「どちらとも言えない」「あまりそうしない」「全くそうしない」	
事後調査項目	振り返り	課題解決	課題の解決策を考えることで、自分のお金の使い方(金銭管理)を振り返ることができた	「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかとも言えない」「どちらかと言えば、そう思わない」「全くそう思わない」
			課題の解決策を考えることで、家計の収入と支出の関係や自分の家族の金銭管理について想像しやすくなった	
	学習の有効性	商品の選択, 購入時の学んだことの活用に関する意識	一連の学習中や学習後, 『商品やサービスを選んだり購入したりしたとき』に「学んだことを活かしたな」と思った場面がありましたか。	「あった」「なかった」

			一連の学習中や学習後、『商品やサービスを選んだり購入したりしたとき』に「学んだことを活かしたな」と思った場面を具体的に記入してください。	
		金銭の管理で学んだことの活用に関する意識	一連の学習中や学習後、『金銭の管理』で「学んだことを活かしたな」と思った場面がありましたか。	「あった」「なかった」
			一連の学習中や学習後、『金銭の管理』で「学んだことを活かしたな」と思った場面を具体的に記入してください。	

3 結果と考察

3. 1 金銭管理のカリキュラムの開発と実践

題材名は、「Aさん家族の課題の解決策を提案しよう」である（表2）。主体性を育むための手立てとして、生徒に身近な事例を取りあげたパフォーマンス課題を提示することで、「意思決定プロセス」を意図的に導入し、生徒が自ら考え、計画し、選択する機会を増やした。また、冬休みと修学旅行において、現金と電子マネーを可視化できるおこづかい帳をつけるという実践の場を設定した。開発した題材計画に沿った授業実践について述べる。

1時間目は、パフォーマンス課題を提示し、その解決に向けて、様々な資料から現金と電子マネーによる支払い方法のメリット・デメリットを調べた。保護者、生徒の立場での調べ学習やロールプレイを通じて、現金と電子マネーによる支払い方法の特徴を理解した。

2時間目は、1時間目の授業をもとに、バーチャル「家族会議」（ディベート）を行い、Aさんへのアドバイスを考えた。

冬休みと修学旅行の期間に、おこづかい帳をつけた。図1に示すように、おこづかい帳の左頁は計画とし、修学旅行で買おうとしているものやサービスをニーズとウォンツにわけ、支払い方法ごとに記述した。右頁は実践とし、修学旅行で買ったもの・サービスをニーズとウォンツにわけ、支払い方法ごとに記述した。

3時間目では、パフォーマンス課題を提示し、Aさんの家計への提案を考えることを通して、おこづかいが家計の一部であることの認識を持つようになったり、限られた収入のなかで、ニーズとウォンツを見分け、根拠をもって支出の優先順位を考えたりした。

表 2 「A さん家族の課題の解決策を提案しよう」（3 時間扱い＋修学旅行）

	学習課題	主な学習活動	評価規準
1	現金とプリペイド電子マネーにはどんな違いがあるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ A さんと保護者の立場に分かれて、様々な資料から現金・電子マネーのメリット・デメリットを調べ意思決定し、記述する。 ・ 同じ役割になる生徒同士での家族会議（意見交流）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現金や電子マネーのメリット・デメリットを記述することができる。
2	現金とプリペイド電子マネーにはどんな違いがあるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の調べ学習をもとに家族会議（ディベート）を行う。 ・ 家族会議をもとに、A さんのおこづかいの支払い方法のメリット・デメリットを踏まえ、A さんへのアドバイスを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な金銭管理するために、意思決定し理由を記述することができる。 ・ パフォーマンス課題を通して、金銭管理の必要性に気づく。
宿題	冬休み中のお金の使い方を予想し、実際におこづかい帳をつけてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のお金の使い方を把握するためにおこづかい帳をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のお金の使い方を把握させる
行事	修学旅行の予算の使い方を予想し、実際におこづかい帳をつけてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行にて、実際に消費行動を行い、おこづかい帳をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現金、電子マネーの金銭管理を行うことができる。 ・ ニーズとウォンツを考えた計画的な金銭管理を行うことができる。 ・ 支払い方法について、意思決定することができる。
3	家計の収入と支出について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ A さんの家族の家計の課題の解決策について、自分なりに考えグループで意思決定し、解決策を導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必需的支出や選択的支出についての理解をもとに、根拠をもって家計の支出の優先順位を考えることで、家計の収支のバランスを図ることができる。

3. 2 事前・事後調査結果

電子マネーに対する意識を事前・事後で比較した結果を図2に示す。事前調査に比べ、事後調査では、すべての項目で、「そう思う」と回答した割合が増加した。事後調査の結果から電子マネーに対して、使用の利便性や使用への意欲がある一方で、管理が難しく、非実感であり、使いすぎてしまうと考えている。

また、交通系電子マネーの使用度を図3に示す。事前調査では「今、自分でチャージして使っている」と回答した者はいなかったが、事後調査では25.0%に増加した。

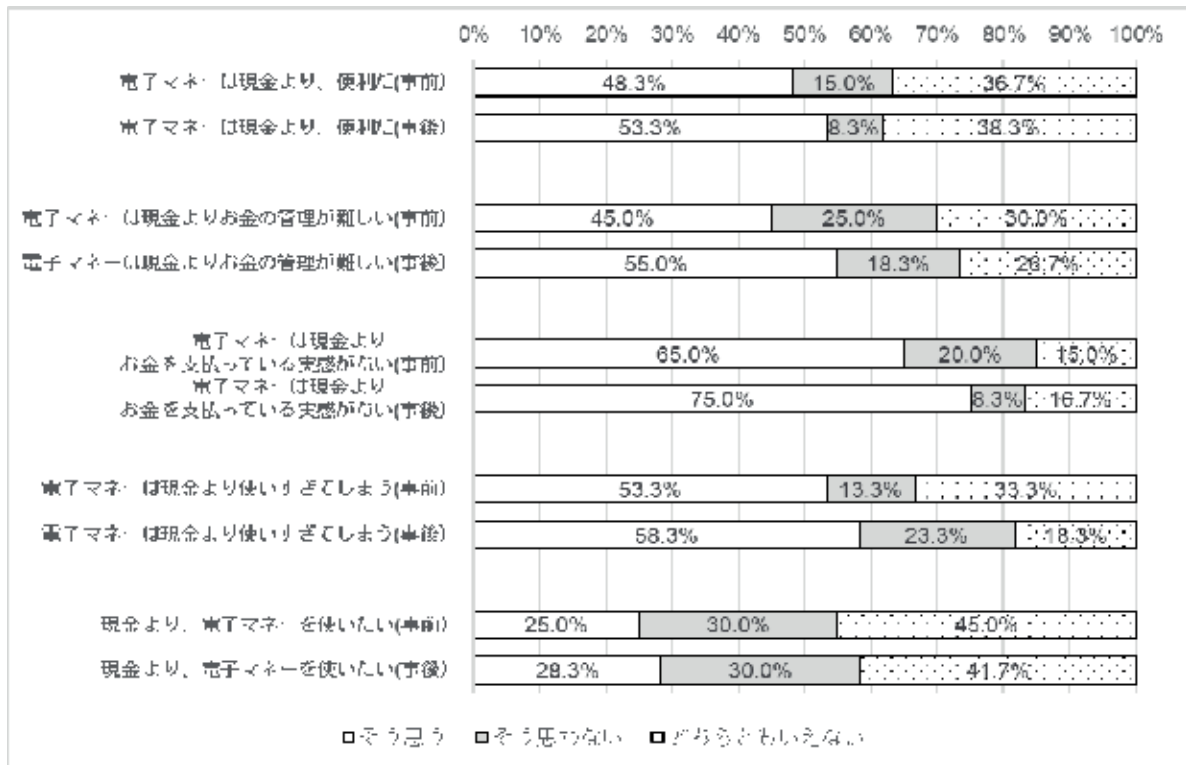


図2 電子マネーに対する意識 (N=60)

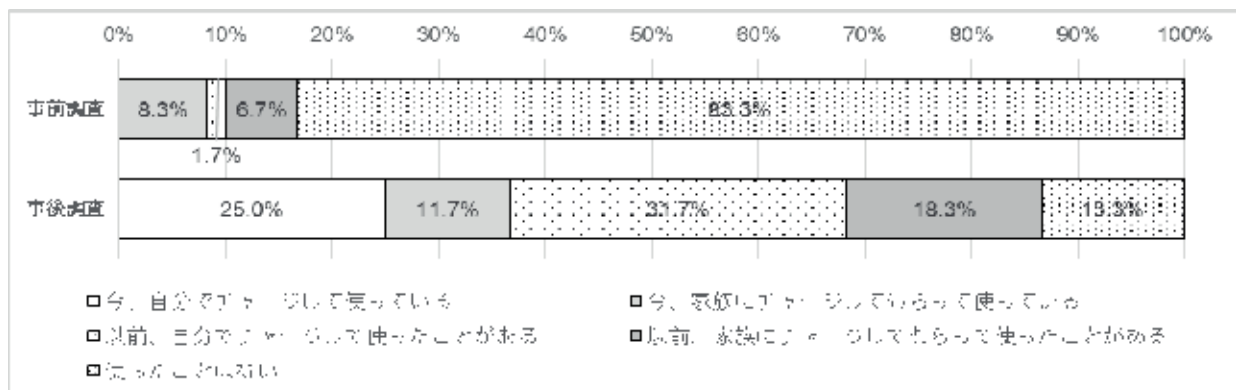


図3 交通系電子マネーの利用度 (N=60)

3. 3 学習過程における主体性の形成

学習過程における主体性の形成については、金銭管理の学習における主体性の構成要素（知識、スキル、金銭に関する価値観、自己効力感、実践力）の視点から分析を進めた。

分析に先立って、対象生徒（生徒 0 と生徒 P）は、以下の 3 つの観点から総合的に判断して抽出した。

①電子マネーを「今、自分でチャージして使っている」

前述のように、事前調査では電子マネーを「今、自分でチャージして使っている」生徒の割合は 0.0%であったが、事後調査では 25.0%を示した。これらの生徒は、金銭管理の学習後、学んだ知識やスキルを自分の生活に役立てて行動している可能性のある生徒と考えられる。

②電子マネーに対してポジティブな意識をもっている

本授業実践は、地域に電子マネーが導入されたばかりの時期に、電子マネーを利用したことのない生徒が 8 割を超えている状況下で行った（図 3）。現金や電子マネーによる支払方法の特徴についての知識を獲得し、修学旅行で実際に利用するという経験を経たのちの電子マネーに対する意識は、その後の生活への活用に影響を与えと考えられる。そこで、電子マネーに対する意識の調査項目 5 つの平均値をポジティブ得点と定義し、事後調査において、ポジティブ得点が平均値 (0.87 点) よりも高い生徒に着目をした。ちなみに、事前調査におけるポジティブ得点は 0.85 点であった。

③ワークシートや課題の提出状況と、その記述量

生徒の学習過程を分析する材は、授業のワークシートの記述や生活における実践の省察、事後調査における自由記述である。そこで、これらをすべて提出し、かつ記述量が比較的多い生徒に着目をした。

生徒 0 は、交通系電子マネーを「使ったことがない」状態から、「今、自分でチャージして使っている」という行動をしていることから、学んだことを生活の中で実践する力を身に付けていると推察された。また、電子マネーに対して、非実感であり、使いすぎてしまうイメージがあったが、学習後には電子マネーは便利であり、管理が難しくなく、非実感ではあるものの使い過ぎることはないといったポジティブな意識を持つようになった生徒である（ポジティブ得点：0.60 点→1.40 点）。生徒 0 の学習過程についてまとめたものを表 4 に示す。

一方、生徒 P は、交通系電子マネーを「以前、家族にチャージしてもらって使ったことがある」との回答から修学旅行での電子マネーの利用経験はあるが、現在は使用していない。事前調査では、電子マネーに対して便利であり、管理が難しくなく、非実感はあるものの使い過ぎることないといったポジティブな意識を持っていたが、結果的に電子マネーを利用するに至っていない生徒である（ポジティブ得点：1.40 点→1.00 点）。生徒 P の学習過程についてまとめたものを表 5 に示す。

次目において、生徒 0 と生徒 P の学習過程における主体性の形成について述べる。

表 4 生徒 0 の学習過程

授業	ワークシートの記述	省察	その他
事前調査	・交通系電子マネーカード： 知らない ・交通系電子マネーカード： 使ったことはない		
1	【メリット】どれくらい財布に入っているか目でみて確かめられるため、お金を使いすぎることが減る。 【デメリット】銀行口座に残高がなければ使用できない。 【疑問点】お金を使いすぎた場合どうなるのか。		・保護者役（現金派） ・A さんの保護者役の生徒同士での意見交換で出てきた意見 【メリット】お金を使っている感覚があり、使いすぎたりしない 【デメリット】財布をなくしたり、中身を盗られたりする可能性がある。 【疑問点】電子マネーを無くしてしまったら、チャージしてあるお金は戻ってくる保証はあるのか。
2	【意見】お金を使っている感覚がわかる。 【質問】現金を事前にバスを降りる時に準備をするという。 【反論】残高の確認ができない。	今日の学習で（お金は何も考えずに使うと、いつか足りなくなるので、お金は計画を立てて、使うことが大切になってくるといことがわかった。これからは、（しっかりとお金を自分で管理し、ここで使うべきか本当に必要かしっかりと考えて計画を立てて使うことが大切だとわかりました。）	・A さん役 【意見】冬になるとバスを多く使うから MegoICa の方がいい。 【質問】お金を使っている感覚が人によってそれぞれ違う。 <u>【反論】お金を落としてしまうかもしれない。バスで眠っていれば用意できない。（4-1）</u>
宿題	【買いたいもの】お菓子 100 円（現金払い） 【買ったもの】お菓子 300 円（現金払い）	おこづかい帳をつけてみて、（お金を使う計画を立てることにより、お金が急に減ることもなくなるし、支払い方法も決めることで、スムーズに支払いができること）がわかった。これからは、（計画を立てて、お金を使っていくことを意識して、使いすぎないように上手にお金を使用していきたい。）	
行事	【計画】 買わなければいけないもの： 電車代 200 円（MegoICa 払い） 買いたいもの：食べ物 1500	おこづかい帳をつけてみて、（制限した中でお金を使うと、今まであまり考えずに買っていたものも本当に必要かどうか考えるようになった。修学旅行中	

	<p>円（現金払い）など 計 1500 円</p> <p>【実践】</p> <p>買ったもの：必要だったもの 電車代 200 円（MegoICa 払い） 買い物袋 20 円（現金・MegoICa 払い） 買ったもの：欲しかったもの あられ 200 円（MegoICa 払い） キーホルダー 5000 円（現金払い） など計 17000 円（現金払い）， 8400 円（MegoICa 払い）残高 18000 円（4-2）</p>	<p>にお金がなくなったら何もできなくなるので，更に考えて使うようになり，お金を計画を立てて考えて使うことの大切さを改めて実感しました。おこづかい帳をつけて初めて実践したので，自分がどれくらいいつもお金を考えずに使っているのかなどを知るきっかけとなったので，よい経験をすることができました。）</p>	
3	<p>A さんの解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の約束を，A さんに残っているおこづかいが少ないからという理由でことわる。 ・外食を減らす。 	<p>授業を通して私は，（自分が本当に必要な時にお金がないと自分が一番困るし，家族にも迷わくをかけてしまうから，<u>お金は考えて今どれくらいおこづかいが残っているか確認して，先々を見すえて使うようにしていきたいです。</u>）（4-3）</p>	<p>【<u>クラス全体で最終提案を決める</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外食を減らし，<u>新聞を買わない（自炊を手伝い，TV で代用）</u> ・グッズを買わない（スマホで代用） ・美容院を 1000 円カットにする。 →髪にお金をかけなくてもよい。 <p>（4-4）</p>
事後調査	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系電子マネーカード：よく知っており，説明できる ・交通系電子マネーカード：今，自分でチャージして使っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の学習中や学習後，『金銭の管理』で「学んだことを活かしたな」と思った場面を具体的に記入してください。：修学旅行で現金と MegoICa とを使い分けたときです。 ・一連の学習中や学習後，『商品やサービスを選んだり購入したりしたとき』に「学んだことを活かしたな」と思った場面を具体的に記入してください。：修学旅行でお土産を考えて選んだとき。 	<p>・課題の解決策を考えることで，自分のお金の使い方（金銭管理）を振り返ることができた：とてもそう思う</p>

※表中の金額は，プライバシーに配慮して筆者が修正している。

※末尾に記載した数字は文章中の説明で用いる。

表 5 生徒 P の学習過程

授業	ワークシートの記述	省察	その他
事前調査	・交通系電子マネーカード： よく知っている ・交通系電子マネーカード： 使ったことはない		
1	【メリット】いろいろなコンビニやスーパーでつかえる。 【デメリット】使える所と使えない所があるし、荷物が少なくなるかもしれないけど、現金と一緒でおとしてしまったらおわり。 【疑問点】会計の時にすばやく会計できないけどどうすればいい。		・A さん役（電子マネー派） ・A さん役の生徒同士での意見交流で出てきた意見 【メリット】交通手段が増える。いろいろなところで使うことができる。 【デメリット】家族が忙しいからチャージがあまりできないかもしれない。 【疑問点】ネットショッピングの時はどうすればいい？
2	【意見】バス代、コンビニで使うお金をまとめることができる。 【質問】記述なし 【反論】電子マネーもお金もつかうと何かに表示されるので、電子マネーも残金がわかる。	今日の学習で（最近月で何円というので持たせてくれるので、お金の管理をちゃんとしていきたいということがわかった。これからは、（ちゃんとお金の使い方を改めたいと思った。）	・A さんの保護者役 <u>【意見】（現金）休んでいなかった。</u> <u>【質問】 【反論】 記述なし（5-1）</u>
宿題	【買いたいもの】記述なし 【買ったもの】ペン 500 円（現金払い）		
行事	【計画】 買わなければいけないもの：お土産代（部活）2000 円（現金払い）、電車代 300 円（MegoICa 払い） 買いたいもの：記述なし 合計金額：記述なし	おこづかい帳をつけてみて、（けっこう使っているとわかった。）	

行事	<p>【実践】</p> <p>買ったもの:必要だったもの</p> <p>電車代 300 円 (MegoICa 払い) (5-2)</p> <p>買ったもの:欲しかったもの</p> <p>お土産代 (部活) 200 0 円 (現金払い)</p> <p>など</p> <p>計 22000 円 (現金払い), 300 円 (MegoICa 払い)</p> <p>残高 6000 円</p>		
3	<p>A さんの解決策</p> <p>・美容院のお金を使わないで, 買いたい物があるから, 1600 円使いたい。</p>	<p>授業を通して私は, (もっと, 計画的にお金を使って, たりなくなったら, ちょっと前倒しをしたらいいかんじました。) (5-3)</p>	<p>【クラス全体で最終提案を決める】</p> <p>・ガソリン代と, 外食, 新聞につかうお金を減らす。 (5-4)</p>
事後調査	<p>・交通系電子マネーカード: 聞いたことがある程度</p> <p>・交通系電子マネーカード: 以前, 家族にチャージしてもらって使ったことがある</p>	<p>・一連の学習中や学習後, 『金銭の管理』で「学んだことを活かしたな」と思った場面を具体的に記入してください。→電子マネーは便利だけど, 使いすぎちゃうことがあると思うし現金のほうが使う分だけもらえばいいから</p> <p>・一連の学習中や学習後, 『商品やサービスを選んだり購入したりしたとき』に「学んだことを活かしたな」と思った場面がありましたか。→なかった</p>	<p>・おこづかいの使い方に計画を立てている→そう思わない (5-5)</p> <p>・欲しいものは, 貯金してから買う→どちらとも言えない (5-6)</p> <p>・課題の解決策を考えることで, 自分のお金の使い方 (金銭管理) を振り返ることができた→どちらかと言えば, そう思う</p>

※表中の金額は, プライバシーに配慮して筆者が修正している。

※末尾に記載した数字は文章中の説明で用いる。

3. 3. 1 1・2時間目

1・2時間目のロールプレイでは、生徒0と生徒Pの違いとして、生徒0はAさんの保護者役（現金派）を演じ、生徒PはAさん役（電子マネー派）を演じた。また、授業中のワークシートの記述については、生徒0は、4-1「お金を落としてしまうかもしれない。バスで眠っていれば用意できない。」といったディベート相手のAさん役の発表内容を記述していたが、生徒Pは、ディベート相手の保護者役が欠席したため、5-1「【意見】（現金）休んでいなかった。【質問】【反論】記述なし」というように違いが認められた。

このことから、生徒0は、Aさん役（電子マネー派）の意見を聞き、自分で調べた現金のメリット・デメリットとの違いを理解できていたといえる。しかし、生徒Pは、自分で調べた電子マネーの特徴と現金の特徴を比較する要素が不足していたと考えられる。

3. 3. 2 生活における実践

修学旅行のおこづかい帳の記録を比較したところ、生徒0と生徒Pには、電子マネーの利用状況に違いが確認できた。生徒0は、4-2「8400円（MegoICa払い）」という記述から、MegoICaを多く使用していたが、生徒Pは、5-2「電車代 300円（MegoICa払い）」という記述から、電車代のみMegoICaを使用していた。

生徒0は、現金と電子マネーの支払い方法の特徴などの知識を得た上で、事前に具体的な計画を立てて実践するという成功体験を得たと解釈された。また、おこづかい帳に自分のお金の使い方を可視化したことにより、修学旅行における金銭管理が自分でできたことをメタ認知することができ、「金銭管理ができる」という自信（自己効力感）を獲得したのではないかと推察される。一方、生徒Pは、電車代のみの利用だったため、電子マネーを利用した成功体験が少なかったことから電子マネーを利用しようという意識が育たなかったのではないかと推察した。

3. 3. 3 3時間目

3時間目では、生徒0と生徒Pの違いとして、【クラス全体で最終提案を決める】という活動での記述量に次のような差があった。生徒0と生徒Pは同じクラスであり、活動後には同じ結論に至っている。しかし、生徒0は4-4「・外食を減らし、新聞を買わない（自炊を手伝い、TVで代用）・グッズを買わない（スマホで代用）・美容院を1000円カットにする。→髪にお金をかけなくてもよい。」というように、根拠を示して解決方法を3点記述していたのに対し、生徒Pは、5-4「・ガソリン代と、外食、新聞につかうお金を減らす。」というように、同じく3点の解決方法が記述されていたが、根拠は示されていなかった。このことから、生徒0は、多様な価値観に触れ、自らの価値判断に基づき優先順位を考えて判断する力が育ちつつあることが見て取れる。

また、授業後の省察では、生徒0は4-3「お金は考えて今どれくらいおこづかいが残っているか確認して、先々を見すえて使うようにしていきたいです。」という記述をしており、主体的に先を見通す計画性を育み、価値判断が深まったと判断できる。しかし生徒Pは、5-3「もっと、計画的にお金を使って、たりなくなったら、ちょっと前倒しをしたらいいかんじました。」と記述しており、主体的な計画性は育まれていなかったと解釈した。実際、事後調査において生徒Pは、5-5「おこづかいの使い方に計画を立てている→そう思わない」、5-6「欲しいものは、貯金してから買う→どちらとも言えない」という回答から、計画性に関する意識が弱いことは明らかである。

3. 3. 4 分析のまとめ

生徒 O については、知識、スキル、価値判断、自己効力感、実践力の 5 つ全ての構成要素を一定程度獲得していると考えられ金銭管理の学習で育む主体性が高まっていることが確認できた。したがって、主体性を育むために、パフォーマンス課題を提示し、「意思決定プロセス」を意図的に導入したことで、生徒が自ら考え、計画し、選択する機会を増やすことができたと考えられる。また、現金と電子マネーを可視化できるおこづかい帳をつけるという実践の場を設定したことで、計画の重要性に気づかせることができた。

一方、生徒 P については、知識の獲得や、知識を活用して計画的にお金をつかおうとする金銭管理のスキルなどの獲得が不十分であったこと、具体的な成功体験など自己効力感を得る機会が不足していたこと、生活における実践力の獲得にも至っていなかったが明らかとなった。金銭管理の学習を通して、生徒 P の主体性を育むことはできなかったと言える。よって、生徒 P については、その後の支援として、具体的な成功体験を積ませる機会を増やすとともに、計画性や価値判断を深めるためのアドバイスを行うことで、主体性の向上を図ることが必要であると考えた。授業の中の手立てとして、グループ活動が成立しなかった場合は他のグループに生徒を移動させることや、前時の現金派のワークシートを提示するといった手立てが考えられる。

4 今後の課題

本研究の成果は、学習過程における主体性の形成を、主として電子マネーに対するポジティブな意識や生活における使用の視点から抽出した生徒 2 名の学習過程を分析した知見である。授業対象である 110 名の生徒の中には、主体性の構成要素である知識、スキル、金銭に関する価値観、自己効力感、実践力を獲得し、現金による金銭管理を選択し、生活の中で実践している生徒がいる可能性もある。残念ながら、未だ、現金による金銭管理の力も身に付いていない生徒もいるかもしれない。今後の課題として、より多くの生徒が、「見えないお金」を含めた金銭管理に対する主体性を獲得し、意思決定能力を身に付けるために、個々の生徒の学習過程と主体性の育成について検討を重ね授業改善を行うことが必要である。

参考文献

- 1) 経済産業省(2023). 我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移. (<https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240329006/20240329006.html>, 2025. 01. 07 閲覧)
- 2) 文部科学省(2017). 中学校学習指導要領技術・家庭科(家庭分野). p109-111
- 3) 金融広報委員会ホームページ. 15歳のお金とくらしに関する知識・行動調査(2023年) (https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/15sai_chosa/2023/)
- 4) 神山・中村(2018). 新しい消費者教育 これからの消費生活を考える 第1版
- 5) オーストラリア政府財務省(2022). 国家金融能力戦略-2022. (<https://www.financialcapability.gov.au/strategy-2022>, 2022. 9. 5 閲覧)
- 6) 加賀恵子. (2022). 「中学生のプリペイド電子マネーに対する意識に影響を及ぼす原因」, 『消費者教育』, 第42冊, p35-44